

スポーツで

“せたがや人”の

輪を
広げよう

今、話題のパラスポーツ「ボッチャ」を体験!

区内では48人が活躍中! スポーツ推進委員って何をする人?

区内のスポーツイベントなどで活躍する「世田谷区スポーツ推進委員」とは、一体どんなことをしている人達なのでしょうか? 世田谷区スポーツ推進委員協議会会長の濱谷佳彦さんにお話を聞きました。

取材・文/中川紀郎

地域の生涯スポーツ活動の推進、 発展のコーディネーター

世田谷区では、区民が生涯を通じ「いつでも」「どこでも」「だれでも」「いつまでも」気軽にスポーツが楽しめる生涯スポーツ社会の実現を目指しています。そのコーディネーターとしての役割を担うのがスポーツ推進委員です。現在、推薦や公募により集まった48人の推進委員が5つの地域(世田谷・北沢・玉川・砧・烏山)に分かれて活動しています。任期は2年で、区が委嘱した非常勤公務員です。区民・学校・団体などの依頼を受けて、まちづくりセンターや総合型地域スポーツ・文化クラブ、スポーツひろばなどの情報を提供したり、地域のスポーツイベントの相談役として、イベントの企画・運営補助を行ったり、また、スポーツ用具借用の相談を受けるなど、幅広く活躍しています。

会長の濱谷さんも仕事をしながら、スポーツ推進委員として11年。特に力を入れていることは、ニュー



ボッチャの点数を計算、球間の距離を測定

障害により球を自身で投げられない場合にボッチャの競技で使用する「ランプ」という勾配具



スポーツの体験。

「たとえば、子どもたちのためのラグビー“タグラグビー”や“スポーツ鬼ごっこ”、直径1.2mのボールをヒットして床に落とさないようレシーブする“キンボール”など、新しいスポーツの紹介や普及をしています。中高年向けは、筋力アップを主軸に健康体操教室の紹介や、“日常ながら運動”などのセミナーなども開催しています」とのこと。一年を通して、区内で開催される主要なスポーツイベントを支えるスポーツ推進委員は、元気づくりには欠かせない存在です。



世田谷区スポーツ推進委員協議会
会長 濱谷佳彦さん

一人一人がもっと気軽に 体を動かす機会を増やそう!

「区民スポーツまつり」「世田谷246ハーフマラソン」「新年子どもまつり」などの運営協力はもとより、東京2020大会に向けて、パラリンピックの正式種目でもある「ボッチャ」の体験交流会なども積極的に行っています。

一人一人が気軽に体を動かす機会を増やし、スポーツを身近に感じる暮らしこそ、区が掲げる「成人の週1回以上のスポーツ実施率65%以上」につながるのかもしれませんが。個人でも、グループでも、自分たちに合った活動をしたい! 知りたい! という人は、ぜひ電話で問い合わせを。

体験しました

ルールを知って楽しむボッチャ

2018年12月9日に世田谷区役所で開催された「障害者週間記念事業第38回区民ふれあいフェスタ」内でスポーツ推進委員が運営する「ボッチャ体験コーナー」に参加しました。事前に勉強していったルールを確認しながら初体験。点数を稼ぐための戦略も必要なので、大人から子どもまで十分に楽しめます。



スポーツをしない理由に についての調査結果

- 1位 仕事・家事・育児が忙しくて時間がないから
- 2位 機会がないから
- 3位 年をとったから
- 4位 体が弱いから
- 5位 お金がかかるから

出展:世田谷区「区民意識調査(平成27年度)」

●スポーツ推進委員に関する
問い合わせ

(公財)世田谷区スポーツ振興財団

☎3417-2811 FAX3417-2813